

# 小児科研修

## ◇研修目標および特徴

当院小児科研修の特徴は、小児科全般についての基本的診療から高度医療まで幅広く勉強できることである。感染症を中心とした一般的な症例の主治医になることで小児診療に必要な基礎的知識と技術を修得するとともに、重症例や稀な症例の精査治療過程を見学することで、小児医療への理解を深めることを目指す。また、PALS (Pediatric Advanced Life Support) のプロバイダー1名により、小児蘇生におけるガイドラインと実技も習得してもらえる。

## ◇研修内容

### A. 外来研修

午前中の外来診療では、午前9時から問診、診察見学および処置などの業務ならびに患者への対応態度を指導医の指導のもとに習熟する。午後の特殊外来（心身症、血液腫瘍、内分泌、乳児発達、アレルギー、神経）および超音波検査、聴力検査などの見学を通して、特殊検査法や診療の実際を学ぶ。

### B. 病棟研修

#### A) 第1期（前1か月）

- 研修医オリエンテーション：病棟業務の実際（指示の出し方、各種書類の扱い方、カルテの書き方他）
- 研修医セミナー（英文抄読会）総論、基本的技術、各論、各種検査、PALSプロバイダーマニュアル&小児1次究明処置訓練 など
- 指導医が主治医、研修医は副主治医となって実際の診療にあたる。

#### B) 第2期（後1～2か月）

主治医となる。マンツーマンで指導医がつく（主治医が診断・治療に主導的立場にあり、指導医は方針を協議・確認の上、主治医の診療に責任を持つ）。

### C) 院外研修

堺市泉北夜間休日診療所の夜間救急（小児1次救急）の見学。

## ◇指導スタッフ

川村 尚久 1985年卒	（血液腫瘍、感染、内分泌、腎臓、ワクチン） 日本小児科学会専門医・指導医 日本感染症学会専門医・指導医 ICD（感染症制御医）PALSプロバイダー、日本化学療法学会、抗菌化学療法指導医
岡本 奈美 1998年卒	日本小児科学会専門医・指導医 日本リウマチ学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医

茂原 聖史 2010 年卒 日本小児科学会専門医  
 石本 英己 2018 年卒  
 早野 千明 2018 年卒

**診療実績（年間）、診療設備**

19 床 院内学級 プレイルーム

超音波診断装置 人工呼吸器 クリーンベット 新生児室（産婦人科）

年間延べ外来患者数 7,796 人。年間延べ入院患者数 5,637 人。

入院患者プロフィール（2018 年度入院患者より）

扁桃炎、クループ、肺炎、気管支炎、細気管支炎、急性胃腸炎（O157 含む）、尿路感染症、無菌性及び化膿性髄膜炎、化膿性関節炎、SSSS、無呼吸合併百日咳、ヘルペス口内炎、免疫不全（好中球減少症、高 IgM 血症など）、気管支喘息、重症アトピー性皮膚炎、アレルギー性紫斑病、川崎病、先天性心疾患（VSD,ECD,TOF など）起立性調節障害症 異物誤飲、再生不良性貧血、血小板減少性紫斑病、血球貪食症候群、下垂体性小人症 甲状腺機能異常症 尿崩症 肝炎 先天性胆道閉鎖症 胃食道逆流症 腸重積症 急性虫垂炎 肥厚性幽門狭窄症 潰瘍性大腸炎 クロウン病 白血病 慢性腎炎 ネフローゼ てんかん 多発性硬化症 熱性けいれん 神経性食思不振症 先天性心疾患 低出生体重児 RDS TTN 高ビリルビン血症 無呼吸発作 新生児仮死 頭蓋内出血など

◇ **週間スケジュール**

曜日	AM	PM
月	一般外来診察 病棟診察	乳児後期健診 予防接種
火	一般外来診察 病棟診察 心臓超音波検査	1ヶ月健診 感染制御チームラウンド
水	一般外来診察 病棟診察	血液腫瘍外来 予防接種 内分泌成長外来 新生児聴力検査 抄読会
木	一般外来診察 病棟診察	神経、学習障害外来 腹部超音波検査 心身症外来 乳児発達外来 アレルギー外来
金	一般外来診察 病棟診察	予防接種 カンファレンス

◇ **専門医、認定医、教育病院など学会の指定状況**

日本小児科学会専門医認定施設

日本感染症学会専門医認定施設